

パリ管弦楽団プラス・クインテット(金管五重奏)

Quintette de Cuivres de l'Orchestre de Paris

名門 パリ管 首席ソロ奏者五人が贈る華麗なフレンチプラスサウンド

名門オーケストラとして世界にその名を知られる「パリ管弦楽団」。

管楽器群は、フランス音楽を表現するのに適したクリアで色彩的な音色を備え、つねに時代を照らす輝きを放ちます。特にプラスセクションからは胸のすくような透明な音色と、華麗かつ絶妙なアンサンブルは大きな魅力です。その金管首席ソロ奏者5名で豪華に構成されるのが「パリ管プラスクインテット」。卓越した技術と洗練された音楽性は、全ての音楽ファンを魅了することでしょう。



フレデリック・メラルディ(トランペット) Frédéric Mellardi, Trumpet

弱冠16歳でパリ国立高等音楽院に入学。3年後に満場一致の1等賞で卒業。すぐにケント・ナガノが音楽監督を務めるリヨン国立歌劇場管弦楽団首席ソロ奏者に就任。1997年ピュコフに請われパリ管弦楽団の首席ソロ奏者へ。ジュリエ、ブーレーズらのもとで演奏。世界の優秀な奏者で構成されるスーパー・ワールド・オーケストラで度々来日している。1996年ボルチア国際コンクール(イタリア)1位、ソリストとしても積極的に活動し、ヴェネツィアのパドウア管公演でのオルガンとの共演や国立リヨン歌劇場管とのヒンデミットの二協奏曲、ブリュッヘン指揮パリ管とのハイドンの協奏曲、ロストロポーヴィチが晩年にパリ管を指揮したショスタコーヴィチのビアノ協奏曲などに出演。また、ターリッヒ弦楽四重奏団との共演やパリ管弦楽団プラス・クインテットの日本公演など室内楽においても高い評価を受ける。演奏ツアー、録音も活発で、オーストリア=ハンガリーの金管アンサンブル“プロ・プラス”に参加。さらにIndesensレベルでの数々の録音は高い評価を獲得した。バンドジャーナル誌2014年1月号で表紙を飾った。

セlestan・ゲラン(トランペット) Célestin Guérin, Trumpet

5歳の時にトランペットを習い始める。フランス国立放送フィル奏者のイバム・マアルフ、ジェラール・ブランジェに師事したのち、パリ音楽院入学後、パリ管弦楽団奏者のクレモン・ガレック、ピエール・ジレに師事。パリ音楽院の両教授の下でオーケストラ・レパートリーの研鑽を積み、パリ国立歌劇場、パリ管弦楽団、フランス国立フィル、パリ室内管弦楽団の公演に参加。エラスムス(ヨーロッパの留学制度)の留学生としてドイツのランホルト・フリードリッヒに師事しコンセルトのレパートリーに磨きをかける。2016年には満場一致でマスターを取得し、ヴァレリー・ゲルギエフが指揮するヴェルビエ音楽祭管弦楽団のメンバーとなる。2017年秋、ルーアンで開催された第1回エリック・オビエ国際コンクール優勝者となる。数週間後、国立メス管弦楽団の首席奏者に任命される。翌年、ミュンヘン国際音楽コンクール2位を受賞、同時にBRクラシック賞を受賞した。2019年、パリ管弦楽団首席ソロ・トランペット奏者として入団。



アンドレ・カザレ(ホルン) André Cazalet, Horn

パリ音楽院を2つの1等賞を得て卒業。ブーレーズ率いるアンサンブル・アンテルコンタンボランのソリストとして活動した後、1980年からパリ管弦楽団の首席ソロホルン奏者を務める。ソロ奏者として、エッシュンバッハ、ヤルヴィ、ピュコフ、サヴァリッシュ、パッパーノらの指揮者と共に演奏。また室内楽の分野においては、バレンボイム、ターリッヒ弦楽四重奏団、パスカル・ロジェ、ラベック姉妹、J=P・ランペル、バユ、エッシュンバッハ、エマール、ベレゾフスキーラと共に演奏している。レパートリーは18世紀から現代まで幅広く、作曲家がホルンのための作品を彼に献呈し、それを初演することも多い。ブラームスとリゲティの三重奏曲の録音はディスク・グラントプリを受賞。2011年ヴィクトワール・ドゥ・ラ・ムジーク受賞。シュヴァリエ芸術文化勲章受章。



ギヨーム・コテニデュムーラン(トロンボーン) Guillaume Cottet-Dumoulin, Trombone

10歳の時にサン=ジャン・ドルプの音楽学校でユーフォニアムを始める。1993年パリ国立高等音楽院に入学。96年ユーフォニアムと室内樂において1等賞を得て卒業。1995年からトロンボーンの演奏を始め、1997年パリ国立高等音楽院のジル・ミリエールのクラスに入る。2000年に1等賞を得る。2001年エッシュンバッハが首席指揮者を務めるパリ管弦楽団の首席ソロ奏者に就任。2002年よりミリエールトロンボーン四重奏団メンバー。2003年フィンランド・リエクサ国際コンクールにおいて3位入賞。2013年よりヴェルサイユ地方音楽院トロンボーン科教授。



ステファン・ラベリ(チューバ) Stéphane Labeyrie, Tuba

1991年トゥールーズ国立地方音楽院を審査員満場一致にて金メダル。同年リヨン国立高等音楽院に入学。1995年満場一致の優秀賞で卒業。1995年シドニー国際チュバコンクール、1996年マルクノイキルヒエン国際コンクール、1997年リヴァ・デル・ガルダ(イタリア)国際コンクールでいずれも優勝。2008年ボルチア国際コンクール(イタリア)2位。2000年ソリストとしてミシェル・プラッソン指揮フランス国立キャピトル・トゥールーズ管弦楽団に招かれた。“チュバのバブロ・カザルス”と称される。また、ヴィクトワール・ドゥ・ラ・ムジーク賞をペイ・ドゥ・ラ・ロワール(ロワール県)管弦楽団とともに受賞。リサイタルや室内樂、音楽祭でも活躍し、録音においてはCD『Rencontre(出会い)』がディアパゾン誌において4つ星を獲得した。国立リヨン歌劇場管、国立トゥールーズ・キャピトル管を経て、1999年10月パリ管弦楽団の首席ソロ・チューバ奏者に就任。

